

2026 年 7 月 28 日

公益財団法人ダイオーズ記念財団 代表理事 殿

2026 年度助成金給付事業 中間報告書

事業等名	勤務者のメンタルヘルス向上を目的としたフリーアドレス型オフィスの緑化デザインの最適化
申請者氏名	阿部 建太
所属	東京農業大学
助成対象期間	2026 年 1 月～2026 年 12 月
本報告時点	2026 年 7 月（中間報告時点）

日頃より本事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。標記の件につきまして、2026 年度上半期における実施状況を下記のとおりご報告申し上げます。

1. 事業の概要（本助成対象範囲）

本事業は、フリーアドレス型オフィスの緑化において、勤務者のメンタルヘルス向上に資する植物の最適な「配置」を科学的に検証することを目的とするものである。申請時にご説明したとおり、本検証は下記 3 段階からなる一連の研究の第 2 段階（配置条件の検証）を対象としており、第 1 段階（緑量条件の検証）は本助成に先立ち自主的に開始していたものである。

- ・（1）最適な緑量の検討 — 本助成に先立ち実施（進行中～完了）
- ・（2）最適な配置の検討 — 本助成対象範囲
- ・（3）緑量と配置の組み合わせの検討 — （1）（2）の結果を踏まえ今後実施

2. これまでの実施状況

（１）フェーズ１（最適な緑量の検討）の実施状況・主な解析結果

本助成対象事業の前段階として自主的に進めていたフェーズ１（緑視率 0%・5%・10%・15%の４条件を島ごとに設定し、座席選択傾向およびメンタルヘルス・業務パフォーマンス指標を比較する現地実験）について、データ収集を終え、本報告時点で解析を終了したので、その概要を報告する。

解析にあたっては、各座席への着席割合（緑視率 0%エリアを基準）が心理状態・業務パフォーマンス指標に与える影響について、仕事の忙しさを共変量、実験参加者番号をランダム切片とした線形混合効果モデル（Linear Mixed Model）を用いて検証した。

その結果、緑視率 0%と比較して、緑視率 15%エリアへの滞在割合が高いほど、オフィス満足度（ $\beta = 18.1, p < .001$ ）、仕事集中度（ $\beta = 15.5, p < .001$ ）、新しいアイデアの創出（ $\beta = 10.8, p = .011$ ）、ワーク・エンゲージメント（ $\beta = 1.4, p = .005$ ）、および他者との良好なコミュニケーション（ $\beta = 12.2, p < .001$ ）のいずれについても有意な向上が認められた。一方、ストレス指標については、緑視率 15%エリアではなく、5%エリア（ $\beta = -3.6, p = .033$ ）および 10%エリア（ $\beta = -3.43, p = .019$ ）への滞在割合が高いほど有意な低下が認められた。

以上より、オフィス満足度や集中力、創造性、コミュニケーションといった業務パフォーマンスに関わる指標には緑視率 15%という比較的高い緑量が効果的である一方、ストレス低減という観点では 5%の緑量がより効果的である可能性が示唆された。指標によって最適な緑量が異なるという結果は、本助成対象であるフェーズ２（配置条件の検証）で固定する緑視率水準の検討において重要な基礎資料となる。

（２）本助成対象事業（フェーズ２：最適な配置の検討）に向けた準備状況

フェーズ１の解析結果を踏まえ、本助成対象であるフェーズ２の現地実験開始に向けて、以下の準備を進めている。なお、フェーズ２で固定する緑視率については、上

記解析結果を踏まえ、多数の業務パフォーマンス指標に有効であると考えられた 15% とすることを、実験協力先との協議も踏まえて最終決定する予定である。

① 倫理審査申請書類の修正対応

所属機関の倫理審査委員会に提出していた研究計画書について、審査における指摘事項を踏まえた修正作業を行っている。主な修正点は、フェーズ 1 の実施結果を踏まえて算出した、フェーズ 2 で固定する緑視率、同じくフェーズ 1 の結果から検証すべきと考えられた植物の配置の 2 点である。倫理審査申請書類の修正は近く委員会へ提出する予定であり、本フェーズの実験実施にあたっては、当該承認の取得を前提として進める。

② 実験協力先（大島造園株式会社）との打ち合わせ

実験フィールドを提供いただく大島造園株式会社オフィスのご担当者と定例の打ち合わせを重ね、フェーズ 1 実施中に得られた知見の共有、フェーズ 2 における植物の配置や実験期間中のオフィス運用の留意点について打ち合わせを行っている。あわせて、対象社員への実験概要の説明時期や協力依頼の進め方についても調整を進めている。

③ 実験準備

フェーズ 2 で使用する植物（ポトス、サンセベリア、カボック）の選定・調達、各植物の配置の検討、座席管理サービス「Desk Mosaic」の契約手続き、オンラインアンケート（SurveyMonkey）の質問項目の準備、必要なソフトウェアの購入手続きなど、実験開始に向けた具体的な準備作業を行っている。

3. 現時点における所感・課題

フェーズ 1 の解析を経たことで、緑視率が座席選択やメンタルヘルス指標に与える影響について一定の手がかりが得られつつあり、これをフェーズ 2 の実験設計に反映

できる見込みが立ってきている。一方で、倫理審査の修正手続きや実験協力先との調整には想定より時間を要しており、フェーズ2の現地実験開始は当初計画よりやや後ろ倒しとなる可能性がある。準備を丁寧に行うことは、実際のオフィスで働く社員の方々にご協力いただく現地実験の質を担保するうえで不可欠であり、開始後の実験自体が滞りなく進むよう、現段階での準備に注力している。

4. 今後の実施計画

倫理審査の承認取得後、速やかにフェーズ2の現地実験を開始し、当初計画どおり配置4条件による検証を実施する。実験開始後は月次のオンラインアンケートおよび座席管理データの収集を継続し、実験終了後に統計解析を行う。得られた知見については、フェーズ3（緑量と配置の組み合わせの検討）の実験設計にも反映させる予定である。実施状況および結果の詳細については、最終報告書にて改めてご報告申し上げます。

5. 助成金の使用状況

本報告時点では、フェーズ2の実験準備段階にあり、ソフトウェアの購入や各種ツールの契約更新等に一部経費を近日中に執行予定である。詳細な収支状況につきましては、最終報告書にて改めてご報告申し上げます。

6. おわりに

貴財団のご支援により、フリーアドレスオフィスという実際の職場環境における貴重な検証機会を得られていることに、改めて深く感謝申し上げます。引き続き丁寧に実験準備を進め、勤務者のメンタルヘルス向上に資するオフィス緑化デザインの指針の提示という当初の目的達成に向け、着実に取り組む所存である。ご不明な点等ございましたら、随時ご連絡いただければ幸いです。

なお、フェーズ1の成果については「第57回日本緑化工学会大会」にて発表を行う

ためエントリー済みであり、助成対象のフェーズ2の成果につきましても同様に、学会での発表を予定している。

以上